

第5回里山フェスティバル「里山シンポジウム」 工程表(敬略称) V05-16 2008/5/15 現在

完了済み	番号	分科会名	テーマ名	趣旨	スケジュール	代表者・連絡先	会場	開催日・時間	主要メンバー	備考
開催済み	1	里山と森林・林業	里山と森林・林業	バイオマス/エコタウンの発進 民間・林業・農業によるぎわいを再生する。 山武地方は、全国有数の杉の供給地です。地元材で造る『100年住宅』太陽光エナジーを蓄えた木材やその廃棄物の有効利用を見つけました。 『バイオマス・エコタウン』の発進です。 日時 平成20年4月13日(日)9時30分～16時30分	開場・受付開始 9:00○第1部○森林・林業分科会○ 9:30～9:35 主催者あいさつ○ 9:35～9:45 山武市長あいさつ○ 9:45～10:30 講義・講演 林野庁木材利用課木材利用促進班 10:30～11:15 報告 山武杉ブランド化と利用促進の現況と将来 稗田忠弘 11:15～12:00 バイオマス・エコタウン発進への提言 稗田忠弘・木下敬三・荒尾稔	稗田忠弘	山武市文化会館 のぎくプラザ・視聴覚室	2008-4-13 (日)9:00～17:00	稗田忠弘、木下敬三	
開催済み	2	里山と技量伝承	里山と技能伝承	里山の再生を図っても、里山を生かす技能がなければ何ら意味を成しません。里山伝承技能が遮断寸前の状態にあります 里山での生活技能を、その保持者が現存している今、これを伝えていかなければ、里山と共に亡失します。1年間を通して1講座を、3年計画で3講座を開催します。1年目は茅葺屋根、2年目は藁工作(草履・しめ飾りほか)、3年目は大豆食品(醤油・豆腐・納豆ほか)を。藁・大豆は田畑の耕作、種播きから収穫・加工までを現存する技能保持者から学びます。貴重な日本の文化を継承していきましょう 第1年目：平成20年4月13日茅葺屋根の講義および実作業する参加者募集。以後、1年間技能保持者と現場作業に従事しながら学びます。堅穴式住居の屋根程度の修得は可能です。それ以上は本職として従事する事も可能です。	100年住宅・ペレット製造(燃料・肥料・飼料)・薪ストーブ・炭 バイオ模型・プラ油化装置・環境活動評価プログラム・環境家計簿 12:00～12:50 休憩 12:50～14:30 参加者意見交換 14:30～14:40 休憩 第2部 里山技能伝承講座分科会 14:40～14:45 主旨説明 14:45～15:45 茅葺屋根の講義 佐藤勝昇 講師 15:45～16:00 里山技能伝承講座の説明 木下敬三 16:00～16:30 伝承講座受講希望者と講師の面談	木下敬三	山武市文化会館 のぎくプラザ・視聴覚室	2008-4-13 (日)9:00～17:00		
開催済み	3	里山と観光と食	なりわい＝“わくわくする里づくりの実践” 「里山の暮らしをデザインする」	◇平成19年度は、拠点となる「ろくすけ」に毎月第3日曜日に集まって、茅葺屋根の手入れ、蔵の片付け、畑の開墾とイチゴとソラマメの植え付けをしました。竹林の手入れも出来ました。20年度の分科会では、「ろくすけ」を拠点とした自然・農林業・食・暮らしについて語り合い、人と里山の新しいかかわり方についてデザインし、年間のなりわい計画を作成します。	開会 10時45分～11時20分 これまでの活動報告(土居元) 11時20分～12時30分 「里山の暮らしをデザインする」(遠藤イサム) 12時30分～15時 懇談会	遠藤イサム 090-5515-2455	南房総市平久里下1441・ 「ろくすけ」	2008-3-26 (水) 10:30～12:30	遠藤イサム 遠藤陽子	①千葉自然学校 平久里下「お仮屋」の駐車場(県道88号線、座間木材そば)当日、スタッフが88号線の道沿いで誘導い
開催済み	4	里山と動物福祉	「農業が元気になる、人も元気になる、野生動物も水鳥も自立して元気になる♪」	家畜でも、野生鳥獣でも、生きる楽しみをもって、かつ特有の文化を保全する意味が大きい。それはストレスが大きな病的な、社会的なマイナスを呼び込むことが分かってきたから。EUでは、動物にも生活を楽しむ権利がある。という意識で多頭飼育の弊害を排除して健康な家畜を確保したい法律の施行。この世に生れ、生きているもので意味もなく、社会に貢献しない生き物はない。という原則。 家畜の放牧→ウシや豚の放牧がパッファーゾーンになりイノシシをはじめ野生動物が農地に入りにくくなる事例。放牧により、ウシや豚などの福祉にもつながる ・サル追い犬の実践事例 →全国各地で現在おこなわれているモンキー犬の成功事例。自治体によっては、保健所などで処分される予定だった捨て犬などを訓練して行っているところがある。これもまた福祉につながっている。	スケジュール 開会13:00 総合司会 石山 大(動物分科会副代表・獣医師)(受付開始12:40) 第1部 里山と水鳥と農業 ●はじめに ～今までの水鳥分科会経過説明～荒尾稔(水鳥分科会代表) ●基調講演 13:10～13:50 基調講演「大型渡り鳥白鳥類の餌付けからの脱却と自立化」 ●利根川下流域に大規模な水鳥の越冬地第2局を形成する会 荒尾 稔 ●報告 13:50～14:00 感染症(鳥インフルエンザ)に関する最新の情報 加藤 賢三 ●第2部 里山と動物福祉 ●はじめに ～今までの動物分科会経過説明～ 中野真樹子(動物分科会代表) ●基調講演 14:10～14:50 「里山農業のあり方～野生動物との共生システムと家畜福祉畜産の開発～」 ●日本獣医生命科学大学 名誉教授 松木 洋一 ●14:50～15:20 「里山とツキノワグマ」 里山と野生鳥獣との相対への考え方。京都府立大学大学院生命科学研究所教授 田中 和博 ●総合ディスカッション ● 15:30～16:45 「里山と水鳥」「里山と動物福祉」の2つの分科会を、総合して議論します ● 松木 洋一 田中 和博 栗原 裕治(NPO法人千葉まちづくりサポートセンター副代表) ● 荒尾 稔 ● コーディネーター中野真樹子(獣医師)	中野真樹子 090-1997-6691	Qiball(きぼる)	2008-4-19 (土)13:00～17:00	中野真樹子・石山大・松木	水鳥分科会と合同実施 資料代500円 事前申込み不要 主催：里山シンポジウム実行委員会・千葉県・千葉市 東京情報大学・ちば里山センター・(社)千葉県緑化推進委員会
開催済み	5	里山と水鳥と農業		(1) 白鳥や鴨への餌付け問題がクローズアップされている。餌付けのもたらす問題点と解決方法。生息地を確保し自立を促す。世界有数の水鳥の越冬地を復活させる結びつける。 (2) ふゆみずたんぼと不耕起栽培の組み合わせによる田んぼの新しい農法が、生き物を活性化させる (3) 利根川下流域に水鳥越冬地第2局を形成するためには、生物指標としての大型水鳥の生息権確保に向かう。印旛沼に代わって、「ふゆみずたんぼ・不耕起栽培」の田んぼを、ラムサール登録湿地指定へと、その準備を重ねる。	荒尾稔 090-9313-2054					
開催済み	6	里山と里海	いすみ地域の里山、里海の取組み	流域の自然環境・生物多様性保全の観点から、参加者と一緒に、さらに地域の人たちと一緒に考える集いを開催したい。なお、分科会のオプションとして、ゲンジボタルの観察会(31日夜)、いすみの海の自然観察クルーズ(1日昼)などの現地見学・研修会を予定している。	スケジュール 1 里海からの報告 13:30～14:30 夷隅東部漁協、いすみ夢鯨の会 中村松洋さん ① ミニ mini クルーズ 『里海から里山を見る』 ② 報告 『里海と漁業について』 2 里から里海へ 14:30～15:20 夷隅郡市自然を守る会 伊藤幹雄・大藪健さん ① 流域の視点 「川と里・・・そして山へ」 ② 野生生物保護の視点 「夷隅の野生生物たち」 3 里山・里海を脅かす問題 15:30～16:20 報告者については交渉中 「里山と産廃・埋立て」をテーマに40～50分程度の話 4 意見交換 16:30～17:00 5 オプション 19:00～20:00 『ゲンジボタル観察会』いすみ市山田地区にて	手塚幸夫 いすみ市自然を守る会事務局長 0470-62-8930	いすみ市農漁村体験案内書での開催を予定()	2008-5-31 (土)13:30～17:00	手塚幸夫	栗原連絡
開催済み	7	八千代の里山	生命ははぐくむ谷津・里山	谷津・里山における生物多様性の意味と保全について、学び考えるものとします。	講演1 「里山の意味と保全」 講師：東京情報大学教授 ケビン・ショート氏 講演2 「里山の生物多様性と市民によるモニタリング調査」 講師：(財)日本自然保護協会 福田真由子氏 報告 水と緑を守る八千代市取り組みについて各担当課からの報告、それを受けて参加者による話し合い	高橋秀文 八千代市環境保全課 047-483-1151 内線3211	八千代市総合生涯学習プラザ 多目的ホール	2008-3-16 (日) 13.30～16.40	高橋、桑波田	
開催済み	8	千葉市の里山と農業	「いずみの森」で学ぼう！	千葉市は早くから里山保全活動に取り組み、地元農家、行政が協力し、平成13年には定第1号の「いずみの森」を里山地区に指定しました。そのいずみの森を会場に千葉市の里山保全活動を紹介するとともに、里山植物観察会で新緑の里山を楽しみ、里山に親しんでもらいます。また、その里山を囲む富田農業地帯において農産物の収穫体験を通じ千葉市の農業、農業施策について市民への理解を促します。	10:00～11:00 千葉市指定里山地区「いずみの森」で里山保全活動見学 11:00～12:00 「いずみの森」植物観察会 12:00～13:00 千葉市の農業施策のパネル展示紹介、地元農産物を使った料理の紹介 13:00～14:00 千葉エコ農産物の収穫体験 14:00～15:00 コスモス祭のPR他	千葉市農政課 佐々木 043-245-5757	千葉市富田町都市農村交流センター	5月25日 (日)10:00～15:00	石川農政部長 農政課、農業振興課、営農指導課、グリーンビレッジ推進課	参加は事前申込 募集期間5月1日から9日 定員40名

開催済み	9	我孫子市と里山	生物多様性をはじめとする里山保全と人づくり	我孫子市の谷津ミュージアム事業の拠点である「田んぼ広場」において展開された市民の手による整備を中心に報告し、今後の事業の進め方を考える。また、全国のモデルとなる横浜市の舞岡公園田園「小谷戸の里」で30年近くリーダーとして活躍してこられた小林哲子氏から、生物多様性などの里山保全に参加する人々の多様な価値観に基づく、「思い」「願い」「夢」「意思」をどう受け止め、どのように合意形成しながら活動を続けているのか。また、何が人をひきつけているのか。どのような人づくりを行っているのかなど多くのことを学ぶ場としていきます。	現場報告「田んぼ広場における取り組み～地元農業者と市民による復田について」今嶋保雄氏(谷津学校第3期生) 講演「里山の保全現場から～里山の保全と人づくり～」小林哲子氏(舞岡公園田園・小谷戸の里事務局長) 9:30～9:50現場報告「田んぼ広場における取り組み～地元農業者と市民による復田について」9:50～10:00 質疑 10:00～11:30講演「里山の保全現場から～里山の保全と人づくり～」 11:30～11:50 質疑	木村 稔 我孫子市岡発戸・都部谷津ミュージアムの会代表	近隣センター「こもれび」多目的ホール(成田線東我孫子駅下車7分)	2008-2-16(土) 9:30～12:00	木村 稔(我孫子市岡発戸・都部谷津ミュージアムの会代表)大畑照幸〔実行委員〕佐藤和文・鈴木邦治	主催〕我孫子市岡発戸・都部谷津ミュージアムの会・我孫子市谷津校友会の会・我孫子市〔共催〕里山シンポジウム実行委員会	
1回目完了	10	里山と残土産廃	複数回開催予定 第一回 鉄鋼スラグ問題学習会 今残土産廃から起こっていること及び農薬空散と有機農業のおかしな関係など、今、環境問題は千葉県では宙ぶらりんになっている。私どもはそれを正したいと思う。	愛知県の産業廃棄物処理業者が野積みしていた鉄鋼スラグから、市民グループの調査で、環境基準を超えるホウ素や鉛などが検出されました。鉄鋼スラグは、製鋼の過程で出る産業廃棄物ですが、路盤材などに加工されて利用されると、資材として扱われます。愛知県では、鉄鋼スラグをリサイクル材として認定品目に指定しています。今、全国各地で、この鉄鋼スラグをめぐる間唐が起きています。千葉県でも例外ではありません。鉄鋼スラグ利用を進める愛知県西三河農林水産事務所では、三河湾の干潟が高い鉄鋼スラグについて、汝沃土砂と効果的に混合する手、鉄鋼スラグを活用した干潟造成の実証事業に取り組むとしています。三番蔽でも人工干潟の造成実験が始まりますが、三河湾と同様に鉄鋼スラグなどの使用が不可避となる可能性があります。鉄鋼スラグとは何れリサイクル材として利用して安全性に問題は無いのだろうか。今年の第1回目の環境セミナーのテーマにこの問題を取り上げることにしました未定	講演1：鉄鋼スラグはリサイクル品か産業廃棄物かーその実態に迫る 講師 井部正之さん(ルポライター) 講演 2：環境を汚染する「リサイクル品」鉄鋼スラグ問題と中部圏取組事例報告 講師 吉川三津子さん(ダイオキシン・処分場問題愛知ネットワーク代表) 千葉県ではスラグは商品 ▼河川や海岸の堰堤の強化 ▼路盤材 ▼不法投棄や残土の崩落防止 ▼業者は資料置き場に積み商品	井村 弘子 残土・産廃問題ネットワーク・ちば連絡先 tel&fax 047-454-7549	Qiball(きぼーる)	1回目：2008-2-17(日) 13:30～17:00 2回目：2008-4-26(土) 13:30～17:00	藤原壽和 井上由紀子 金井珠美 吉川菜	残土・産廃問題ネットワーク・ちば里山シンポジウム実行委員会 会場展示：農薬空散と有機農業・やまずな問題の展示	
開催済み	11	里山と森づくり	植樹祭と分科会の開催	身近な地域の自然と森林の大切さに目を向けてもらい、地域住民と地域の子供達が参加し、村田川源流域の水源涵養林として、植えた木の成長を大勢の方と一緒にお祝いできるようなイベントとする。	午前中小山町アザミ谷津の周辺をグループに分かれて観察します。植樹のあと、植林地で昼食をとりながら、森林の再生等に関して懇談 第一部：自然観察会 第二部：植樹 第三部：分科会開催	星野静江 緑の環・協議会 事務局 043-294-6885	千葉市緑区291番地で開催されます	2008-3-8(土) 9:30～	事務局長 奥山 淳	参加費用として¥500(大人)	
開催済み	12	里山とWEBGIS情報の活用	市民と行政情報が統合GISによる融合した情報発信	開催趣旨 里山からの市民情報と、統合GISによる市民への情報公開 里山と、その生物多様性にかかわる情報や残土産廃等の緊急情報を、市民や研究者を中心にした情報と、行政や大学等からの情報を統合GISとして、市民への情報公開をしていくための相互間での協力体制を築くための方法を考える、各種での先進事例をご紹介します ●(1) 緊急情報と、その情報の確認まで 即時にできる双方向での情報交換方式 (NTTベータポートを利用した事例) 里山における最大の事件を考えると、京都府では「ツキノワグマの目撃」や、「外来動物種」の跋扈や、里山等での「残土産廃の廃棄箇所を発見」「交通事故」「病人の搬送依頼」などの話です。 ●その発見から通報、対処策までを含めて、この環境の利用はとて機能する仕組みとなっています。 ●(2) 市民からの情報を精査して、簿記的な手続きを経てデータベースへ登録 ●市民からの情報を、さらに情報の精度や確認手法を練ってデータベース登録するまでと、情報をしっかりした簿記的な監査によって確定登録をする過程と、その情報を、随時にメイン、サブテーマによる大まかに絞り込みによって、インターネット等上で、必要情報を市民に向けての情報公開する手法を事例として紹介します ●(3) 行政や大学等による汎用「統合型GIS」によって、行政からの情報公開に反映する行政からの、情報公開内容に、市民やNPOや研究者、そして大学や研究機関等からの、しっかりと監査済みの情報が、行政目的情報には組み込みにくい生きた、いきいき情報が、融合して市民に情報公開され、同時に、行政目的にも研究者の論文引用にも耐えられる内容として積極的に使われる仕組みとして期待されます。	スケジュール 開会 13:00 総合司会 荒尾繁志 (受付開始12:40) 趣旨説明 13:05 里山シンポジウム実行委員会 荒尾 稔 基調講演 13:15～14:20 ベータポート→生物情報→統合型GISによる京都府民への情報公開の流れ 「京都府自然環境情報システム(ツキノワグマ版)」 京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授 田中和博 14:20～15:00 20年に及ぶ雁鴨白鳥の市民や研究者の調査情報を融合化して情報を発信 「環境省生物多様性センターインターネット自然研究所(全国ガンカモ類飛来情報)」日本雁を保護する会 会長 呉地正行 報告 15:10～15:30 千葉県内の里山からの事例「ムクロジの里」からの報告 「ムクロジの里調査 2004-2007」調査データ ムクロジの里事務局長 山崎輝清 15:30～15:40 NTT ベータポートを利用した市民情報収集システム NTT 担当者 ○○○○ 総合ディスカッション 「里山と市民情報とWEBGISと情報の融合」 15:40～17:00 田中 和博 京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授 呉地 正行 日本雁を保護する会 会長 山崎 輝清 「ムクロジの里」事務局長 加藤賢三 「NPO法人八千代オイコス 代表」 ○○○○ 千葉県 コーディネーター 荒尾 稔 里山シンポジウム実行委員会	連絡先：03-3824-6071 090-9313-2054(荒尾 稔)	Qiball(きぼーる)	2008-5-10(土) 13:00～17:00	荒尾稔 加藤賢三 城之内 荒尾繁志	資料代500円 事前申込み不要 主催：里山シンポジウム実行委員会・千葉県・千葉市・東京情報大学・ちば里山センター・(社)千葉県緑化推進委員会	
開催済み	13	里山と政策1	政策1・森林環境税	制作1：県が支える環境・環境税 県民の里山を支える意識の盛り上げ。29都道府県で実施が確定済み。県民負担の例：神奈川県 政策2：民間型環境直接支払制度と生物多様性農業支援 民間型環境直接支払制度と生物多様性農業の支援 ●経済のグローバル化や、米の値段が下がり生産調整が進む一方で、食の安全への消費者の関心、生物多様性保全の必要性は年々高くなってきています。従来の経済合理性だけを追求する農業から『人と生きものに優しい農業』への価値転換を支援する活動が展開されています。 ●「農」の営みによってもたらされる豊かさに消費者が自ら支払う「民間型環境直接支払い制度」の提案と、それらを支援する生物多様性農業支援センターについてお話しをお聴きします。消費者として何が出来るか、なりわいを支える仕組みをどう構築するか、ともに考えていきたい。 ●森林環境税 ●千葉県の里山は、材木価格の低落、担い手・後継者の不足による林業離れ、林地離れ、また産廃、ごみの不法投棄など今まさに存亡の危機にあります。しかし県民の8割を占める都市住民にはこの現状ほとんど知られておりません。一方わが国はCO2の削減を国際的に公約し、森林による吸収にその中心的役割を期待しています。にもかかわらず、公的な支持体制は確立されておらず、一部では、林業家への無理解からその怠惰を非難する声も聞かれます。 ●そこで、林業・農業を担っている人が、もっと声を上げ、県民との意思疎通、情報交換をしていく必要があると考えます。また、期待される現代の農林業家の役割も再認識する必要があります。 ●水源や緑を守るためすでに29県で税による資金確保がおこなわれています。昨年の分科会では、環境税や森林環境税の仕組みやあり方を学びました。しかし、国民全体で支えるという総論では賛成でも、いざ具体的な税負担になると合意形成は簡単ではありません。林業の実情、県民負担のあり方、期待される効果、各部門の役割等について、いろいろな立場の人たちが、	13:00 第1部 開会 受付開始(12:40) 13:10～14:20 基調講演「民間型環境直接支払制度と生物多様性農業の支援」全国農業協同組合連合会 原 耕造氏 ●14:40 第2部 開会 基調講演 仮題「日本の森林と国民負担・環境税の動向」日本農業新聞社 農政経済部長 永井考介氏 ●15:30 報告 千葉県の森林の現況(千葉県) ●15:45 パネルディスカッション 林業家 君津市 藤平幸夫氏 農政専門家 永井考介氏 都市住民 千葉市 小西由希子 コーディネーター 古谷尊彦氏(千葉大学名誉教授) ●17:20 自由討論「千葉県における森林環境税の条件」●司会 金親博榮(ちば里山センター会長)	連絡先：090-4678-8357(金親)	Qiball(きぼーる)	2008-4-19(土) 13:00～17:00	金親、小西 主催：里山シンポジウム実行委員会・千葉県・千葉市 ●東京情報大学・ちば里山センター・(社)千葉県緑化推進委員会	里山と政策1、里山と政策2は合同開催 資料代500円 事前申込み不要	
開催済み	14	里山と政策	政策2・	制作1：県が支える環境・環境税 県民の里山を支える意識の盛り上げ。29都道府県で実施が確定済み。県民負担の例：神奈川県 政策2：民間型環境直接支払制度と生物多様性農業支援 民間型環境直接支払制度と生物多様性農業の支援 ●経済のグローバル化や、米の値段が下がり生産調整が進む一方で、食の安全への消費者の関心、生物多様性保全の必要性は年々高くなってきています。従来の経済合理性だけを追求する農業から『人と生きものに優しい農業』への価値転換を支援する活動が展開されています。 ●「農」の営みによってもたらされる豊かさに消費者が自ら支払う「民間型環境直接支払い制度」の提案と、それらを支援する生物多様性農業支援センターについてお話しをお聴きします。消費者として何が出来るか、なりわいを支える仕組みをどう構築するか、ともに考えていきたい。 ●森林環境税 ●千葉県の里山は、材木価格の低落、担い手・後継者の不足による林業離れ、林地離れ、また産廃、ごみの不法投棄など今まさに存亡の危機にあります。しかし県民の8割を占める都市住民にはこの現状ほとんど知られておりません。一方わが国はCO2の削減を国際的に公約し、森林による吸収にその中心的役割を期待しています。にもかかわらず、公的な支持体制は確立されておらず、一部では、林業家への無理解からその怠惰を非難する声も聞かれます。 ●そこで、林業・農業を担っている人が、もっと声を上げ、県民との意思疎通、情報交換をしていく必要があると考えます。また、期待される現代の農林業家の役割も再認識する必要があります。 ●水源や緑を守るためすでに29県で税による資金確保がおこなわれています。昨年の分科会では、環境税や森林環境税の仕組みやあり方を学びました。しかし、国民全体で支えるという総論では賛成でも、いざ具体的な税負担になると合意形成は簡単ではありません。林業の実情、県民負担のあり方、期待される効果、各部門の役割等について、いろいろな立場の人たちが、	制作1：県が支える環境・環境税 県民の里山を支える意識の盛り上げ。29都道府県で実施が確定済み。県民負担の例：神奈川県 政策2：民間型環境直接支払制度と生物多様性農業支援 民間型環境直接支払制度と生物多様性農業の支援 ●経済のグローバル化や、米の値段が下がり生産調整が進む一方で、食の安全への消費者の関心、生物多様性保全の必要性は年々高くなってきています。従来の経済合理性だけを追求する農業から『人と生きものに優しい農業』への価値転換を支援する活動が展開されています。 ●「農」の営みによってもたらされる豊かさに消費者が自ら支払う「民間型環境直接支払い制度」の提案と、それらを支援する生物多様性農業支援センターについてお話しをお聴きします。消費者として何が出来るか、なりわいを支える仕組みをどう構築するか、ともに考えていきたい。 ●森林環境税 ●千葉県の里山は、材木価格の低落、担い手・後継者の不足による林業離れ、林地離れ、また産廃、ごみの不法投棄など今まさに存亡の危機にあります。しかし県民の8割を占める都市住民にはこの現状ほとんど知られておりません。一方わが国はCO2の削減を国際的に公約し、森林による吸収にその中心的役割を期待しています。にもかかわらず、公的な支持体制は確立されておらず、一部では、林業家への無理解からその怠惰を非難する声も聞かれます。 ●そこで、林業・農業を担っている人が、もっと声を上げ、県民との意思疎通、情報交換をしていく必要があると考えます。また、期待される現代の農林業家の役割も再認識する必要があります。 ●水源や緑を守るためすでに29県で税による資金確保がおこなわれています。昨年の分科会では、環境税や森林環境税の仕組みやあり方を学びました。しかし、国民全体で支えるという総論では賛成でも、いざ具体的な税負担になると合意形成は簡単ではありません。林業の実情、県民負担のあり方、期待される効果、各部門の役割等について、いろいろな立場の人たちが、	2008-4月6日(日)船橋県民の森 5月11日(日)千葉市泉自然公園 6月1日(日)清和県民の森 8月17日(日)清和県民の森 11月23日(日)船橋県民の森(あるいは神崎町大峰教育の森) 2009-2月22日(日)佐倉市民の森	増田 淳 Fax:043-227-8305 メール atsushi777@dream.com	第2回目 千葉市泉自然公園		赤城建夫 増田 林	ワークホーム里山林 保険などのために参加者1名当たり300円をいただきます(乳児は除きます)。
	15	里山と医療・福祉	森林療法、園芸療法など「僕も君も同じように感じている」	ストレスの解消と、健康増進 森の中を歩くため、動きやすい服装をお願いします。今後の資料として使用のため、実施風景の撮影や会話の録音についてご了承ください。薬、健康保険証等各自必要なものは持参してください。中止条件 暴風や大雨の時には中止します。中止情報は090-7257-1881へ。 指導者 臨床心理士 赤城建夫(ちば発達評価・心理指導ルーム所属)森林インストラクター、ボランティア4名程度	2008-4月6日(日)船橋県民の森 5月11日(日)千葉市泉自然公園 6月1日(日)清和県民の森 8月17日(日)清和県民の森 11月23日(日)船橋県民の森(あるいは神崎町大峰教育の森) 2009-2月22日(日)佐倉市民の森	増田 淳 Fax:043-227-8305 メール atsushi777@dream.com	第2回目 千葉市泉自然公園		赤城建夫 増田 林	ワークホーム里山林 保険などのために参加者1名当たり300円をいただきます(乳児は除きます)。	
	16	里山と文化・伝統	里山の原点を考える	これまで縄文時代・古墳時代・鎌倉時代のムラについて考えてきたが、今回は、縄文・弥生時代、奈良・平安時代のムラについて考え、さらに、原始・古代のムラと里山についてのまとめた討論会を行う。	縄文時代(上守)、弥生時代(渡邊)、奈良・平安時代(笹生)のムラと里山景観に関する講演の後、コーディネーター(佐久間)を加え、里山の起源から今日の里山への変遷などについての討論会を行う。	清藤一順 (千葉県立中央博物館自然誌・歴史研究部長) 043-265-3111	千葉県立中央博物館 講堂	2008-5-10(土) 13:00～16:30	清藤一順 佐久間豊 上守秀明 渡邊修一 笹生衛		

開催 済み	17	里山と教育	学校に里山環境を復元しよう！ー学校ビオトープの可能性ー	船橋地域のかつての谷津田環境を復元した県立船橋芝山高校の「里山生態園『芝山湿地』」は学校ビオトープではあるが、千葉県RDBに掲載されている絶滅が心配される25種の生物たちの生息が確認されており、船橋地域の生物多様性を支えている。 学校ビオトープを軸としながら、里山環境の復元、生物多様性の保全、学校と地域の連携による地域のエコアップなどについて話し合う。	①開会と芝山湿地の整備の経過説明 13:00～13:30 ②芝山湿地の見学 13:40～14:30 ③芝山湿地の生物、今後の方向性 14:40～15:10 ④質疑、交流 15:10～15:50 ⑤閉会 15:50～16:00	佐野郷美	千葉県立船橋芝山高校	2008.5.10(土) 13:00～16:00	佐野郷美 南波鑑四郎 福士融	学校ビオトープ「里山生態園『芝山湿地』」の見学を含む
開催 済み	18	里山と生物多様性	里山の生物異変についての市民情報交換会	千葉の里山の生物異変について、市民情報交換の場といたします。皆さまからの情報をお寄せ下さい。	生物多様性保全と温暖化を一体として捕らえなければならなくなってきました。里山での環境教育や保全活動の中で、近頃、里山の生きもの(植物も)の異変に気づいたことはありませんか？生物暦がずれているもの、異変、北方性外来種の定着、異常繁殖、亜熱帯外来種の定着、作物の収穫と時期、種まき時期のずれほか？？について市民情報交換をする分科会にぜひ情報をいただきたいのです。主催里山シンポジウム実行委員会東京情報大学千葉県千葉市 ちば里山センター 協賛 生活協働組合パルシステム	鈴木	Qiball(きぼーる)	2008-4-19(土) 13:00～17:00	鈴木	(社)千葉県緑化推進委員会下泉・森のサミット
開催 済み	19	里山と竹	失われる動植物の多様性(竹の害を排除する)	現地で、見学を行い、その場で話しあい。昨年度は100名を超す来場者がありました。竹林セラピーの解説など	栽培地での各種の竹の見学 10:00から12:00 彼岸花も50,000株を	代表 田代武男 043-432-5954 副代表 田中昭三	成田市竜台306番地初音庵(そばや)付近	2008-5-10 10.00～12.00	田代	竹林セラピーエリア
開催 済み	20	里山と水循環	川の再生と生物多様性	川は、湧水・雨水・市街地からの排水などを受け入れやがて海へと流れていきます。海の生き物は、川、里山が育みます。川に人が近づけない、汚れた川等、現在の川事情はいかがでしょうか？川の再生活動(事業)から、生きものが戻ってきた坂川(松戸市)。親水公園に向けた、都川(千葉市)生きもの再生への活動(事業)の、2つの事例をお聞きます。ワークショップでは、「生きものが豊かで、人々に親しまれる川になるために」について行います。	13:15 受付 13:30 開会 趣旨説明 13:40 坂川の再生 林 薫氏(千葉県河川環境課) 14:20 都川総合親水公園(生きもの目標を掲げた小川の再生) 斉藤 久芳氏(千葉市公園建設課) 14:50 休憩 15:00 ワークショップ 「生きものが豊かで、人々に親しまれる川になるために」 15:40 まとめ 16:00 閉会	桑波田 kuwahatak@hotmail.com	Qiball(きぼーる)会議室3(13階)	2008-4-19(土) 13:30～16:00	桑波田和子 荒尾繁志 千葉智雄	
開催 済み	21	里山と都市緑地	都市の中の里山	貴重な自然体験の場「関さんの森」を残そう！	10時 開会、あいさつ等 その後、関さんの森の現在の状況を説明し、関さんの森ウォッチング(森の観察会、森周辺の開発状況視察、タケノコ掘りの体験など) 12時 昼食(タケノコ料理、野草の天ぷら等) 13時閉会	山田 047-346-2878 junnan@mb.infoweb.ne.jp	「関さんの森」	2008-4-20(日) 10:00～13:00	川北、山田	関美智子さまの森
開催 済み	22	里山と生物多様性	「ホテルからみえるもの」～どうすれば、地域のホテルが残せるか～	「里山と生物多様性：ホテルから見えるもの」ということでホテルをテーマに分科会を開きます。どうすれば、地域のホテルが残せるかについて、話し合えればと思っています。基調講演では、「日本と中国のホテルの多様性～現状と課題～」について大場信義氏に伺います。続いて、県内各地からのホテル事情の報告、それをうけ「地域のホテルを残すための方策」について、ワークショップ。内容をまとめて今後に向けての提案を行います。	13:00 開会 趣旨説明 13:10 基調講演 日本と中国のホテルの多様性～現状と課題～ 大場信義氏(大場蛍研究所長) 14:10 県内各地からのホテル事情の報告 15:10 ワークショップ(地域のホテルを残すには) 16:10 報告 16:20 閉会	加藤賢三(携帯)090-8568-1957 kato-ken@jcom.home.ne.jp	千葉県立中央博物館、講堂	2008-4-26(土) 13:00～16:30	倉西良一 手塚幸夫 加藤賢三	300円(資料代)